

図9. 業務出張の「いいえ」「どちらともいえない」の理由

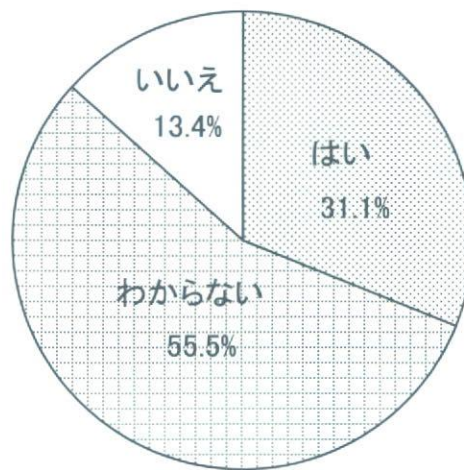


図10. キャリアアップを評価するシステム

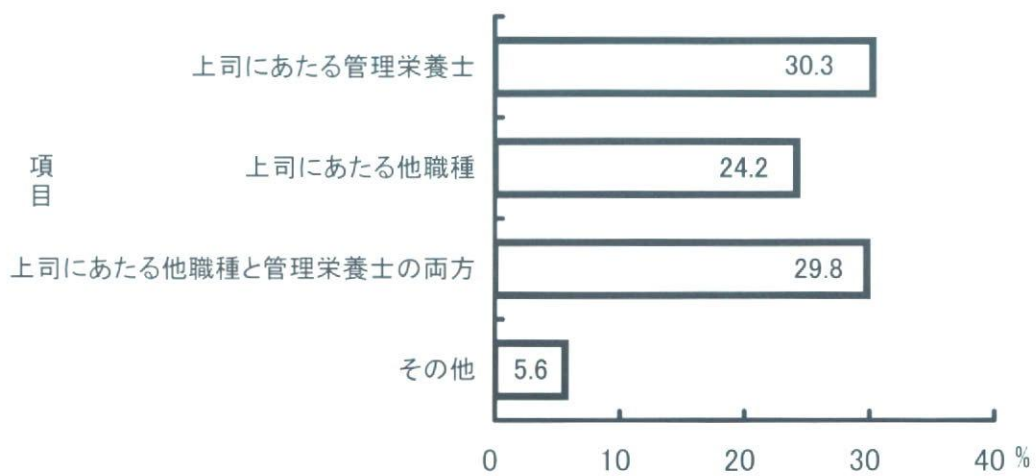


図11. 個人のキャリアアップ評価者

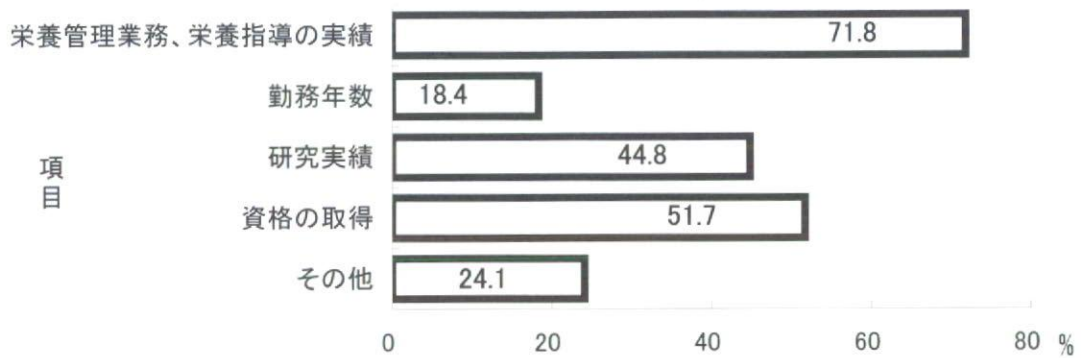


図12. キャリアアップの評価基準

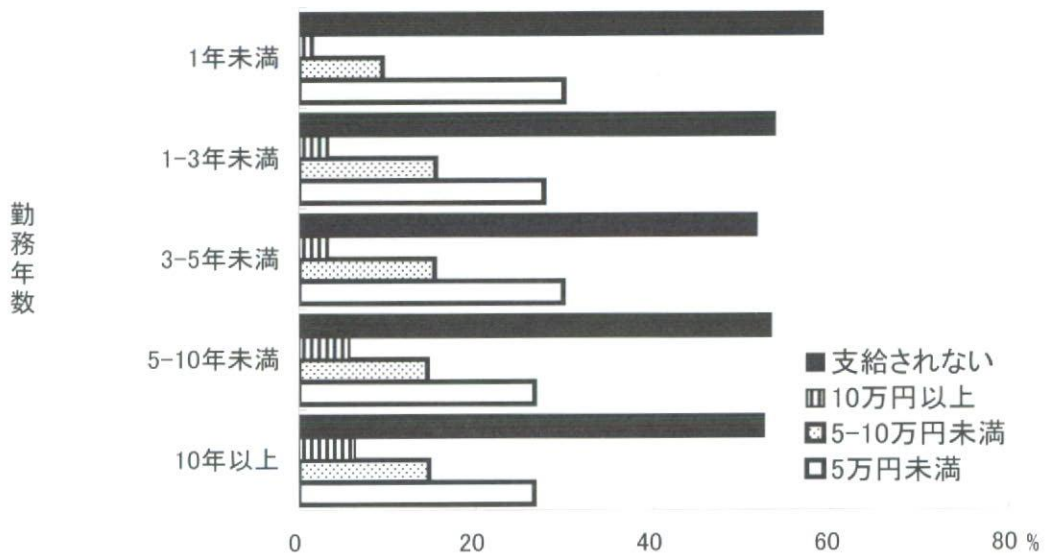


図13. キャリアアップのための支援金

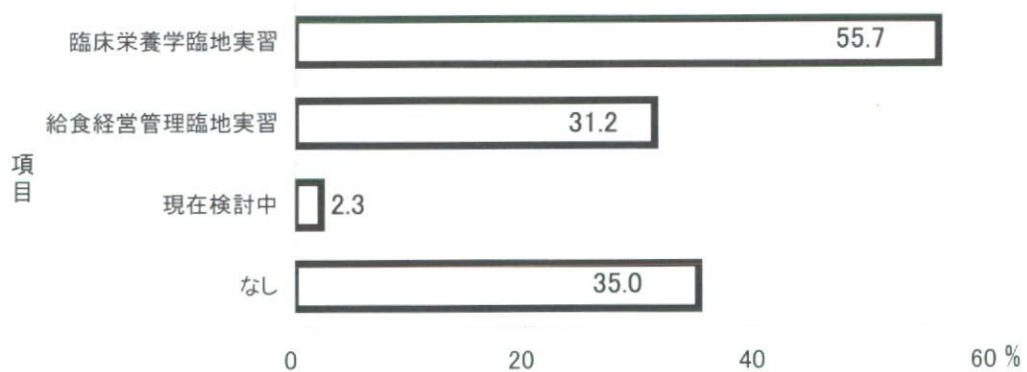


図14. 管理栄養士養成施設の臨地実習を受け入れた経験

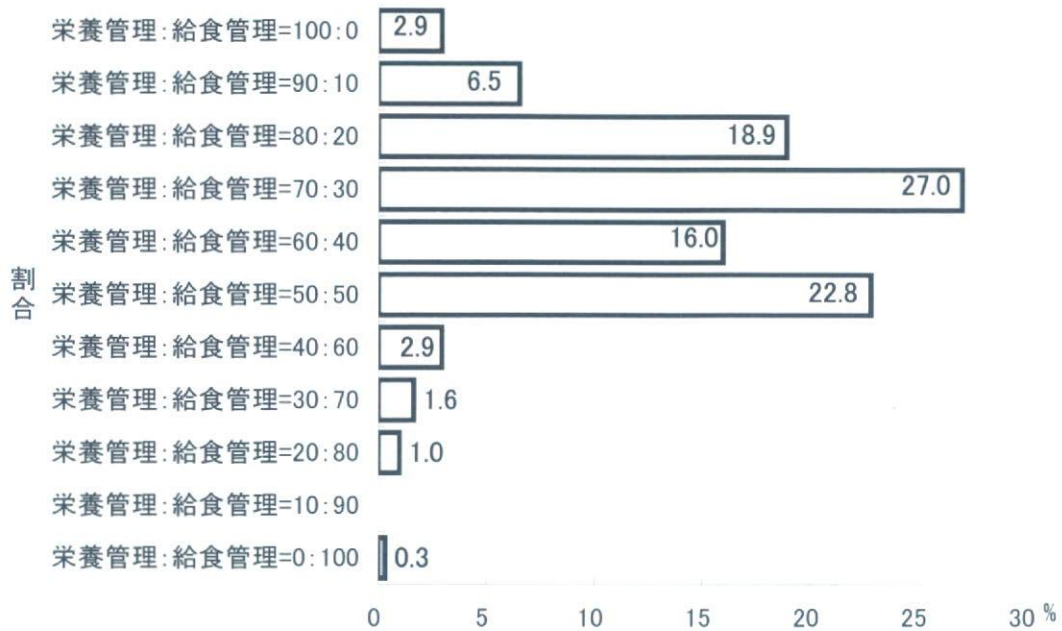


図15. 栄養管理と給食管理の割合

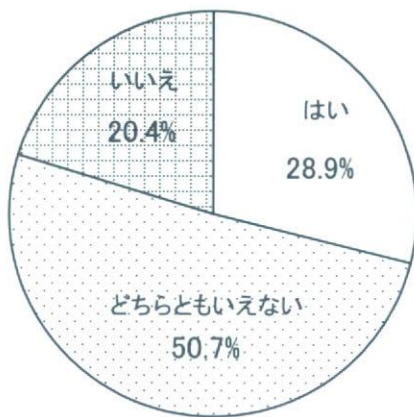


図16. 臨床栄養学臨地実習を受ける際の専任教員の必要性

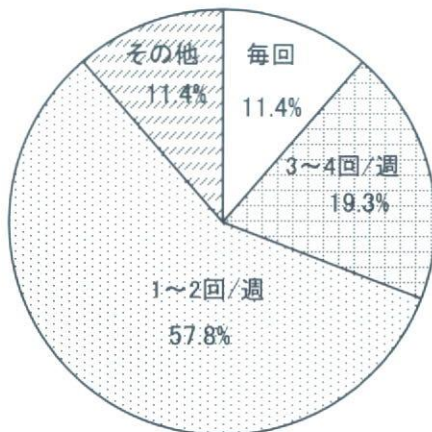


図17. 臨地実習期間中の教員が詰める頻度

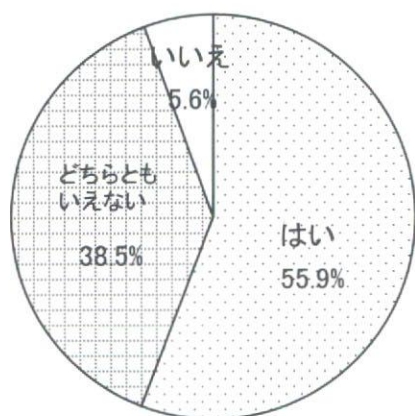


図18. 臨床研修(インターンシップ)の必要性

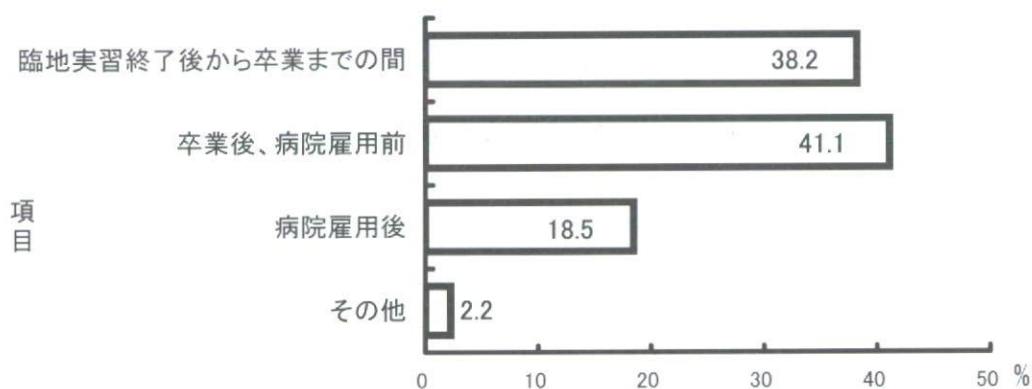


図19. 臨床研修(インターンシップ)の時期

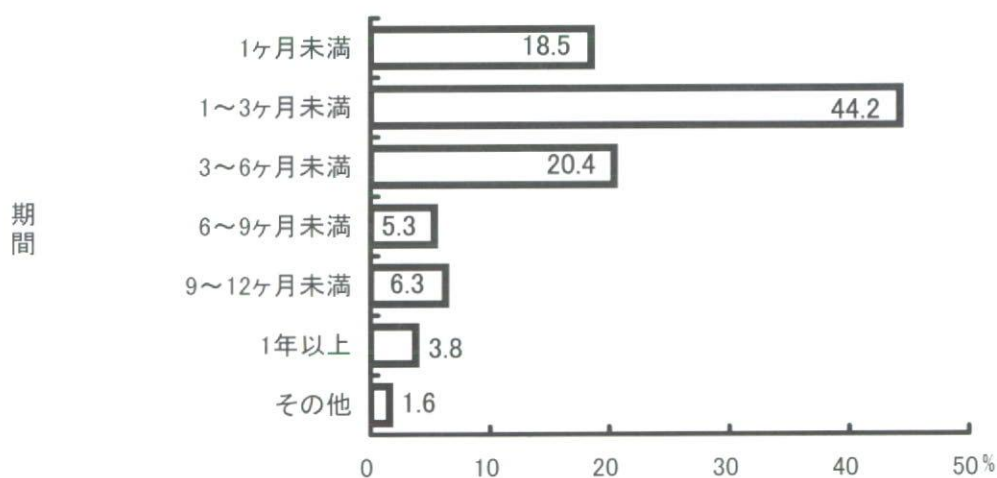


図20. 臨床研修(インターンシップ)期間

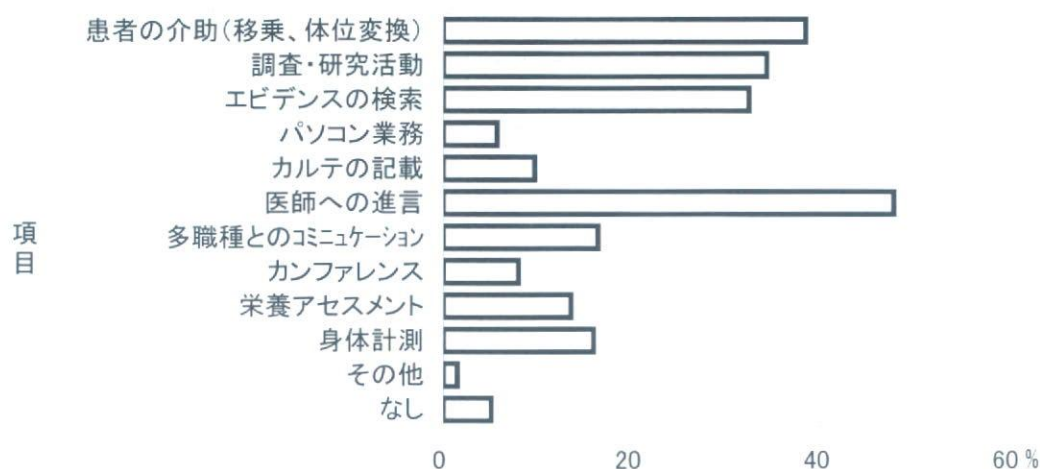


図21. 栄養管理を進める上で苦手とする業務内容

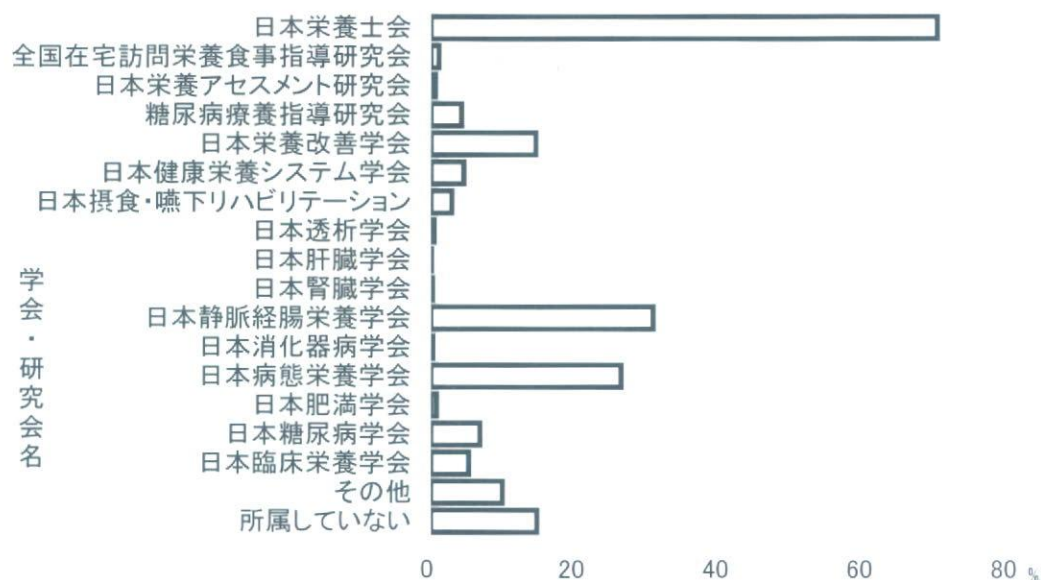


図22. 所属学会および研究会

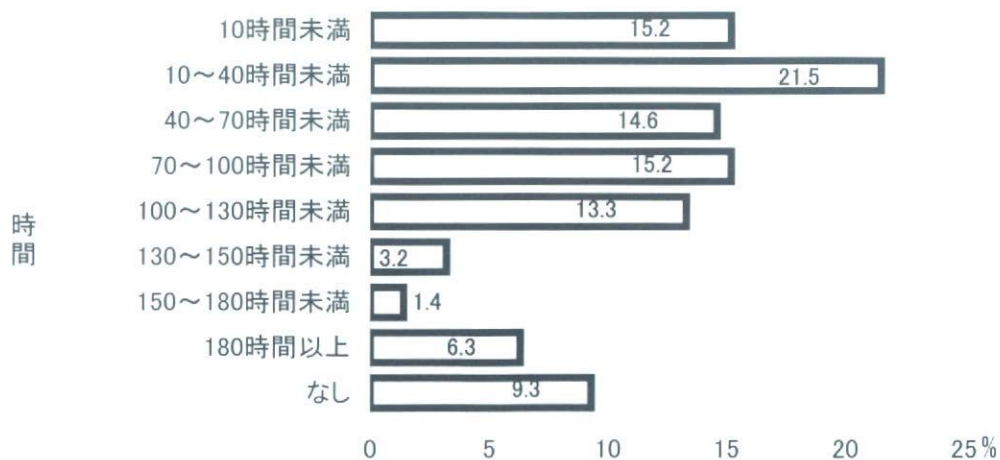


図23. キャリアアップに費やした時間の合計



図24. キャリアアップのための自己負担額

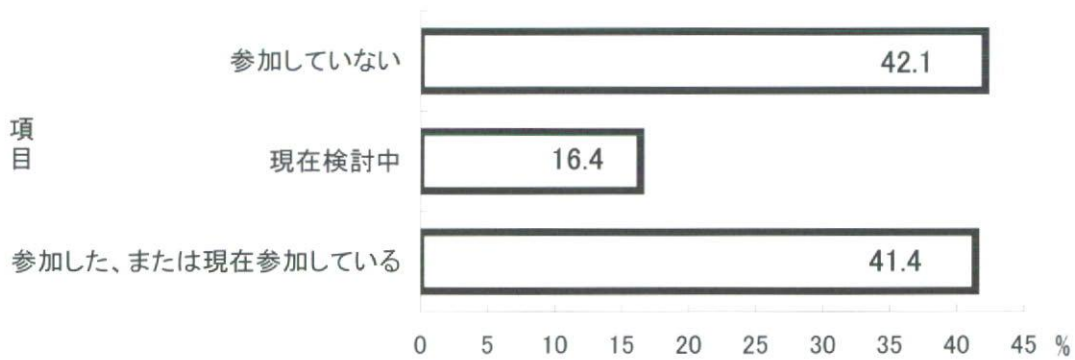


図25. 学会認定資格取得のための研修会・講習会

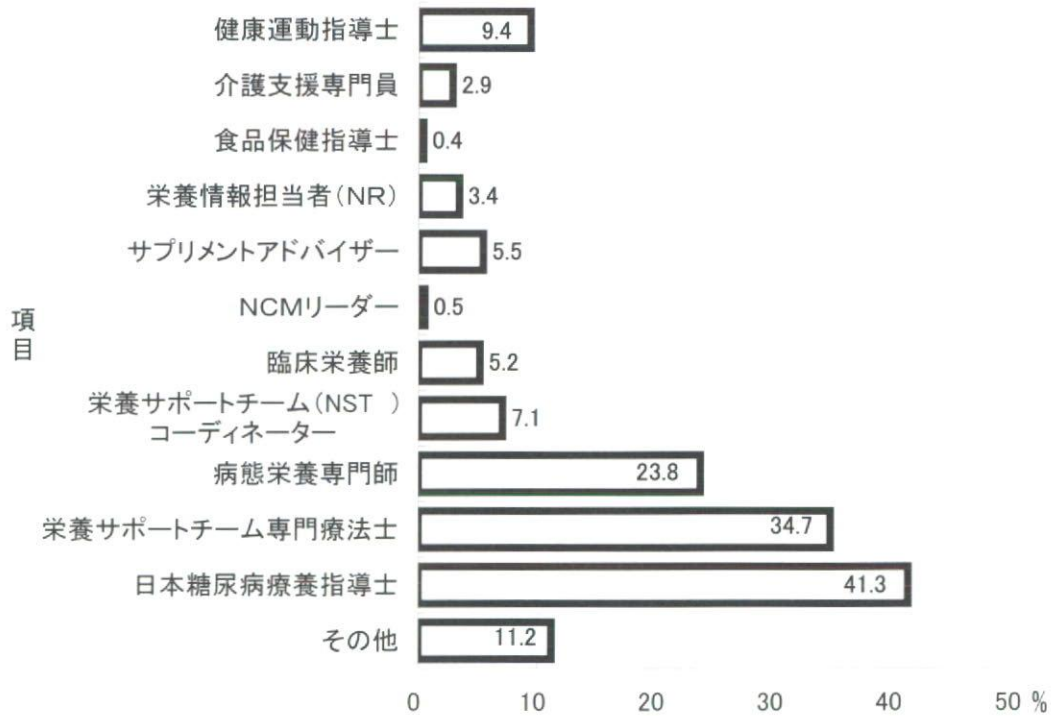


図26. 参加または検討中の資格

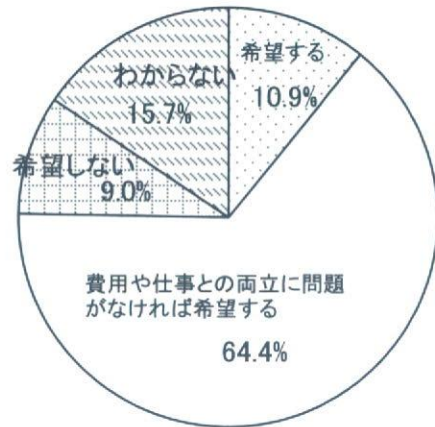


図27. 臨床分野の仕事をしながらの進学

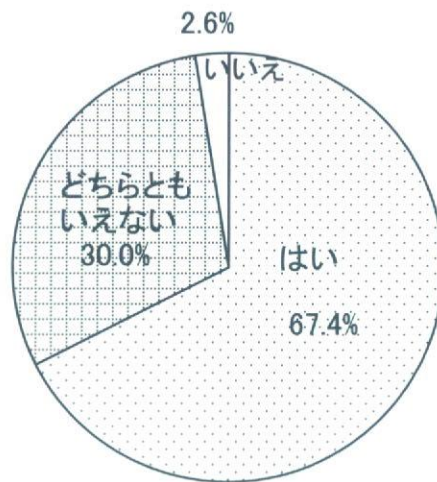


図28. 管理栄養士のプリセプター教育の必要性

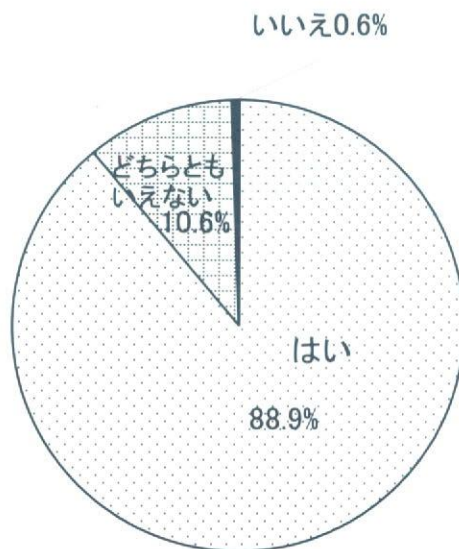


図29. 管理栄養士の質の向上を目指す
人材育成の必要性

表 1. 病床規模と病床の種類

単位：床

病床数 (施設数)	病床内訳		合計病床数		一般病床数		結核病床数		精神病床数		療養型病床数 (医療型)		療養型病床数 (介護型)		緩和ケア病床数		回復期病床数		その他病床数	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
100-199 (n=188)	170.0	31.8	105.7	51.0	28.8	21.9	107.3	55.0	58.8	34.8	59.2	34.8	32.5	34.5	55.1	29.3	49.9	94.4		
200-299 (n=91)	246.1	28.6	184.8	71.1	35.3	30.4	182.3	88.6	86.4	58.0	81.0	60.5	20.3	12.4	47.3	19.7	28.6	35.5		
300-399 (n=81)	336.0	26.5	279.3	86.8	39.4	19.7	198.7	118.8	116.1	79.8	93.6	71.7	20.6	3.8	68.5	41.2	30.6	43.5		
400-499 (n=62)	440.0	29.0	389.3	92.8	48.7	40.4	220.1	167.5	89.5	72.6	92.0	47.6	18.8	10.6	92.0	87.1	26.8	35.7		
500-599 (n=37)	539.5	32.8	484.6	93.6	45.0	37.2	48.8	28.1	203.0	133.7	197.3	118.0	19.5	10.4	72.8	51.3	11.6	8.6		
600-699 (n=24)	634.8	35.4	549.0	153.9	12.7	7.9	98.7	129.1	115.0	51.4	121.5	65.3	17.0	7.6	48.0	21.5	10.5	7.6		
700-799 (n=10)	726.8	30.6	659.3	94.7	15.0	8.2	167.3	243.0	47.0	23.5	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	36.0	25.5		
800以上 (n=24)	991.3	30.6	867.5	94.7	30.0	8.2	107.3	243.0	214.0	23.5	310.0	0.0	18.0	25.0	47.5	0.0	21.4	25.5		

M: 平均 SD: 標準偏差

表 2. 回答者の年代

	実数	%
20 歳代	433	33.9
30 歳代	399	31.2
40 歳代	227	17.8
50 歳代	201	15.7
60 歳代	15	1.2
70 歳代	2	0.2

n=1277

表 3. 現在の職場における病院雇用における常勤管理栄養士勤務年数

	実数	%
1 年未満	168	13.2
1～3 年未満	308	24.2
3～5 年未満	185	14.6
5～10 年未満	234	18.4
10～15 年未満	153	12.0
15 年以上	223	17.5

n=1271

【施設(栄養部門)用】医療サービスにおける管理栄養士の人材育成に関する調査票

この調査は、医療サービスにおける管理栄養士の業務実態およびキャリアアップなどの状況を調査し、管理栄養士の人材育成のあり方を提言することを目的としています。ご協力よろしくお願い致します。

以下の質問に対して該当する番号には○、____または()には数字・文章をご記入ください。

I. 施設、栄養部門について

1	合計病床数およびその内訳	合計病床数 _____床 1. 一般病床 _____床 2. 結核病床 _____床 3. 精神病床 _____床 4. 療養型病床(医療型) _____床 5. 療養型病床(介護型) _____床 6. 緩和ケア _____床 7. 回復期 _____床 8. その他() _____床
2	患者食業務形態 (いずれか1つ回答)	1. 直営 →Q3 2. 部分委託 → Q2-1 3. 全面委託 → Q2-1
2-1	2で「部分委託」または「全面委託」と回答した方にお伺いします。どの部分を委託していますか。(複数回答可)	1. 食数管理 2. 献立作成 3. 発注および在庫管理 4. 調理 5. 配膳 6. 下膳 7. 洗浄 8. その他 ()
3	病院雇用職員数(常勤)	1. 管理栄養士 _____名 2. 栄養士 _____名 3. 調理師 _____名 4. 調理員 _____名 5. 栄養部門所属の事務員 _____名
4	病院雇用職員数(非常勤)	1. 管理栄養士 _____名 2. 栄養士 _____名 3. 調理師 _____名 4. 調理員 _____名 5. 栄養部門所属の事務員 _____名 6. 非常勤なし
5	委託会社職員数(常勤・非常勤を合わせて)	1. 管理栄養士 _____名 2. 栄養士 _____名 3. 調理師 _____名 4. 調理員 _____名 5. 栄養部門所属の事務員 _____名
6	病院雇用管理栄養士(常勤)の<年代別>内訳人数	1. 20歳代 _____名 2. 30歳代 _____名 3. 40歳代 _____名 4. 50歳代 _____名 5. 60歳代 _____名
7	病院雇用管理栄養士(常勤)の<勤務年数別>内訳人数	1. 1年未満 _____名 2. 1～3年未満 _____名 3. 3～5年未満 _____名 4. 5～10年未満 _____名 5. 10年以上 _____名

II. 栄養管理業務について

8	平成19年度における栄養管理実施加算の件数と実施率	_____件、_____%
9	栄養管理は診療科別もしくは病棟担当制になっていますか。 (いずれか1つ回答)	1. 診療科別担当制になっている 2. 病棟担当制になっている 3. その他() 4. 特に分けていない
9-1	栄養管理における管理栄養士1人あたりの病棟訪問延べ人数(1週間平均)	約 _____名/週
10	NSTが設置されている場合、介入内容は何か。 (複数回答可)	1. 低栄養 2. 褥瘡 3. 摂食・嚥下障害 4. 生活習慣病対策 5. その他() 6. NSTが設置されていない

III. 管理栄養士を教育するためのプログラム(生涯教育)[※]について

※管理栄養士のためのプログラムとは、生涯教育として取り組まれているものを指します。

11	病院雇用常勤管理栄養士を教育するための明文化されたプログラム(マニュアル)はありますか。 ※職場のオリエンテーションは除く (いずれか1つ回答)	1. あり → Q11-1 2. 現在検討中 → Q12 3. その他() → Q12 4. なし → Q12
11-1	11で「あり」と回答した方にお伺いします。 そのプログラムは実務経験年数に分けて設定されていますか。 (いずれか1つ回答)	1. はい → Q11-2 2. いいえ → Q12
11-2	11-1で「はい」と回答した方にお伺いします。 そのプログラムは次のどの実務経験年数に対して存在しますか。 (複数回答可)	1. 1年未満 2. 1～3年未満 3. 3～5年未満 4. 5～10年未満 5. 10～15年未満 6. 15年以上 7. その他()
12	病院雇用非常勤管理栄養士が在職している場合のみご回答ください。 病院雇用非常勤管理栄養士を教育するための明文化されたプログラム(マニュアル)はありますか。 ※職場のオリエンテーションは除く (いずれか1つ回答)	1. あり → Q12-1 2. 現在検討中 → Q13 3. その他() → Q13 4. なし → Q13
12-1	12で「あり」と回答した方にお伺いします。 そのプログラムは実務経験年数に分けて設定されていますか。 (いずれか1つ回答)	1. はい → Q12-2 2. いいえ → Q13
12-2	12-1で「はい」と回答した方にお伺いします。 そのプログラムは次のどの実務経験年数に対して存在しますか。 (複数回答可)	1. 1年未満 2. 1～3年未満 3. 3～5年未満 4. 5～10年未満 5. 10～15年未満 6. 15年以上 7. その他()
13	明文化(マニュアル化)されていなくても慣例となっている教育内容がありますか。 ※職場のオリエンテーションは除く (いずれか1つ回答)	1. あり → 教育内容() 2. なし

14	新卒管理栄養士を雇用する場合、栄養管理業務を行うための教育期間は、どの程度必要だと思いますか。 (いずれか1つ回答)	1. 2週間 2. 4週間 3. 3ヵ月 4. 6ヵ月 5. 1年 6. 1年以上 7. その他()
15	今後、管理栄養士としてどのような人材を雇用したいと思いますか。 (1.2.3.4.は複数回答可) (a. b. c.はいずれか1つ回答)	1. 栄養管理業務が任せられる人→(a. 初任者 b. 経験者 c. 管理者) 2. 給食管理業務が任せられる人→(a. 初任者 b. 経験者 c. 管理者) 3. その他()

IV. 管理栄養士としてのキャリアアップ(生涯学習)について

16	貴院では、栄養管理(病棟での栄養管理、栄養食事指導など)に関するキャリアアップのための研修はどのように行われていますか。 6.の回答者は、主催者名を()にお書き下さい。 (複数回答可)	1. 病院全体の中で実施 2. 栄養部門で実施 3. 栄養士会主催の研修会に参加 4. 栄養・医学系学会の研修会に参加 5. 自治体主催の研修会に参加 6. 3.4.5.以外の()が主催する研修会に参加 7. その他() 8. なし
17	貴院では、学会や研修会への参加に対して業務出張が認められていますか。 (いずれか1つ回答)	1. はい →Q18 2. どちらともいえない →Q17-1 3. いいえ →Q17-1
17-1	17で「いいえ」、「どちらともいえない」と回答した方にお伺いします。 その理由として何が考えられますか。 (複数回答可)	1. 人員不足 2. 時間的に余裕がない 3. 費用がない 4. 必要がない 5. その他()
18	貴院では、個人のキャリアアップを評価するシステムがありますか。 (いずれか1つ回答)	1. はい →Q18-1 2. いいえ →Q19 3. わからない →Q19
18-1	18で「はい」と回答した方にお伺いします。 誰が評価しますか。 (いずれか1つ回答)	1. 上司にあたる管理栄養士 2. 上司にあたる他職種 3. 上司にあたる他職種と管理栄養士の両方 4. その他()
18-2	18で「はい」と回答した方にお伺いします。 評価の基準は何ですか。 (複数回答可)	1. 勤務年数 2. 栄養管理業務、栄養指導の実績 3. 資格の取得 4. 研究業績 5. その他()
18-3	18で「はい」と回答した方にお伺いします。 貴院では、キャリアアップのための支援金は支給されますか。 ※交通費を含めた年間支給額 (勤務年数別にa. b. c. d. のいずれか1つ回答)	1. <u>1年未満</u> → (a. 5万円未満 b. 5～10万円未満 c. 10万円以上 d. 支給されない) 2. <u>1～3年未満</u> → (a. 5万円未満 b. 5～10万円未満 c. 10万円以上 d. 支給されない) 3. <u>3～5年未満</u> → (a. 5万円未満 b. 5～10万円未満 c. 10万円以上 d. 支給されない) 4. <u>5～10年未満</u> → (a. 5万円未満 b. 5～10万円未満 c. 10万円以上 d. 支給されない) 5. <u>10年以上</u> → (a. 5万円未満 b. 5～10万円未満 c. 10万円以上 d. 支給されない)

22-2	22で1の臨床栄養学臨地実習について「あり」と回答した方にお伺いします。栄養管理:給食管理の実習内容の割合(%)はどの程度でしたか。(いずれか1つ回答)	1	2	3	4	5	6	
		栄養管理(%)	100	90	80	70	60	50
		給食管理(%)	0	10	20	30	40	50
		7	8	9	10	11		
		栄養管理(%)	40	30	20	10	0	
		給食管理(%)	60	70	80	90	100	
23	貴院における臨床栄養学臨地実習において、教育効果が上がると思われる実習期間は、1人あたりどの程度必要だと思いますか。(いずれか1つ回答)	1. 2週間	2. 3週間	3. 4週間	4. 1ヵ月			
		4. 2ヵ月	5. 3ヵ月	6. 4ヵ月	7. 5ヵ月	8. 6ヵ月		
		9. 8ヵ月	10. 10ヵ月	11. 1年	12. その他()			
24	貴院において、臨床栄養学臨地実習生を受け入れる場合、最大どの程度まで可能ですか。	1回あたり_____名_____週間を _____回/年まで可能						
25	貴院において、臨床栄養学臨地実習を受け入れる場合、管理栄養士養成施設の臨地実習専任の教員が必要だと思いますか。(いずれか1つ回答) (1,2,3すべての回答に対して理由をお書きください)	1. はい→Q25-1 2. どちらともいえない→Q26 3. いいえ→Q26 理由 []						
25-1	25で「はい」と回答した方にお伺いします。実習期間中に教員が貴院に詰めるのはどの程度必要だと思いますか。(いずれか1つ回答)	1. 毎日	2. 週に3~4回	3. 週1~2回	4. その他()			

VII. 臨床研修(インターンシップ)について

※臨床研修(インターンシップ)とは、臨床において管理栄養士の監督の下で、科学的論拠に基づいて

栄養ケア・マネジメントの実践活動ができる能力を養うものをいいます。

26	貴院において、現行の臨地実習とは別に、栄養管理が確実にできる実務能力をつけるためには、臨床研修(インターンシップ)が必要だと思いますか。(1,2,3,すべての回答に対して理由をお書きください)	1. はい→Q26-1 2. どちらともいえない→Q27 3. いいえ→Q27 理由 []					
26-1	26で「はい」と回答した方にお伺いします。臨床研修(インターンシップ)の時期および期間は、いつどの程度が望ましいと思いますか。(時期・期間別にいずれか1つ回答)	1. 時期→ a. 臨地実習終了後から卒業までの間 b. 卒業後、病院雇用前 c. 病院雇用後 d. その他() 2. 期間→ a. 1ヵ月未満 b. 1~3ヵ月未満 c. 3~6ヵ月未満 d. 6~9ヵ月未満 e. 9~12ヵ月未満 f. 1年以上 g. その他()					

VIII. 今後の業務時間調査の依頼について

※業務時間調査とは、どの業務にどれだけの時間を費やしたかを計測するものです。

栄養ケア・マネジメントを効率的に運営するための業務の標準化や手順化、適切な人材配置の基礎データとなります

27	今後、3日間の業務時間調査(タイムスタディ)の協力をお願いできますか。 栄養部門内の常勤の管理栄養士(できれば個人票の記入者)3名の方をお願い致します。	1. はい 2. いいえ
----	---	-----------------------------------

ご協力ありがとうございました。

【 個人用 】 医療サービスにおける管理栄養士の人材育成に関する調査票

この調査は、医療サービスにおける管理栄養士個人の業務実態およびキャリアアップの状況などを調査し、管理栄養士の人材育成のあり方を提言することを目的としています。ご協力よろしくお願い致します。

※こちらの調査票は、病院雇用常勤管理栄養士の方にご回答お願い致します。

以下の質問に対して該当する番号には○、____または()には数字・文章をご記入下さい。

I. あなた自身について

1	性別	1. 男性 2. 女性
2	年齢（記入時現在）	_____ 歳
3	役職の有無	1. 有（役職名：_____） 2. 無
4	現在の職場における病院雇用常勤管理栄養士としての勤務年数 (いずれか1つ回答)	1. 1年未満 2. 1～3年未満 3. 3～5年未満 4. 5～10年未満 5. 10～15年未満 6. 15年以上
4-1	管理栄養士としての実務経験年数 (以前勤務した職場も含む)	実務経験 _____年 _____ヵ月 内、臨床現場における実務経験 _____年 _____ヵ月
5	学歴・学位 (複数回答可)	1. 専門学校卒業 2. 短期大学卒業 3. 大学学士課程卒業 4. 大学院修士課程在学中 5. 大学院修士課程修了 6. 大学院修士課程進学予定 7. 大学院博士課程在学中 8. 大学院博士課程修了 9. 大学院博士課程進学予定 10. その他(_____)
6	学会認定資格または健康、栄養に関する資格の取得状況 (複数回答可)	1. なし 2. 日本糖尿病療養指導士 3. 栄養サポートチーム専門療法士 4. 病態栄養専門師 5. 栄養サポートチーム(NST)コーディネーター 6. 臨床栄養師 7. NCMリーダー 8. サプリメント・アドバイザー 9. 栄養情報担当者(NR) 10. 食品保健指導士 11. 介護支援専門員 12. 健康運動指導士 13. その他(_____)
7	現在、あなたが構成員として参加している院内委員会（複数回答可） ※選択肢から内容の近いものに○をお付け下さい。ただし、ワーキンググループは除きます。	1. なし 2. 栄養・給食委員会 3. 感染対策委員会 4. サービス向上委員会 5. リスク・マネジメント委員会 6. 褥瘡委員会 7. NST委員会 8. 在宅医療委員会 9. 地域医療連携委員会 10. 研修委員会 11. 医療学術委員会 12. 医療情報委員会 13. 倫理委員会 14. その他(_____)

II. 入院患者に対する栄養管理業務について

8	記入時現在、あなたの担当しているベッド数	_____ 床
---	----------------------	---------

16	平成19年度における、社会活動の実践件数（例：講演会・研修会・院内外講座における講師やコーディネーター、コラムの原稿執筆などの活動）	合計 _____ 件
17	平成19年度における、キャリアアップのために費やした時間の合計（例：書籍・雑誌講読、文献検索、論文執筆など） ※勤務時間および学会・研究会・研修会などの参加時間を除く ※1ヵ月平均10時間であれば合計120時間（いずれか1つ回答）	1. なし 2. 10時間未満 3. 10～40時間未満 4. 40～70時間未満 5. 70～100時間未満 6. 100～130時間未満 7. 130～150時間未満 8. 150～180時間未満 9. 180時間以上
18	平成19年度における、キャリアアップのための自己負担額（学会等の年会費、交通費も含める） （いずれか1つ回答）	1. なし 2. 5万円未満 3. 5～10万円未満 4. 10万円以上
19	平成20年度現在、学会認定資格または健康、栄養に関する資格を取得するための研修会や講習会などに参加しましたか。 （いずれか1つ回答）	1. 参加した、または現在参加している →Q19-1 2. 現在検討中 →Q19-1 3. 参加していない →Q20
19-1	19で「参加」および「現在検討中」と回答した方にお伺いします。 その資格は何ですか。 （複数回答可）	1. 日本糖尿病療養指導士 2. 栄養サポートチーム専門療法士 3. 病態栄養専門師 4. 栄養サポートチーム(NST)コーディネーター 5. 臨床栄養師 6. NCMリーダー 7. サプリメント・アドバイザー 8. 栄養情報担当者(NR) 9. 食品保健指導士 10. 介護支援専門員 11. 健康運動指導士 12. その他()
20	今後、あなたが管理栄養士として勉強したい臨床栄養学分野は何ですか。 （複数回答可）	1. 栄養障害 2. 代謝疾患(糖尿病など) 3. 消化器疾患 4. 循環器疾患 5. 腎・尿路疾患 6. 透析 7. 内分泌疾患 8. 感覚器、神経疾患 9. 摂食障害 10. 精神疾患 11. 呼吸器疾患 12. 血液系の疾患 13. 筋骨格疾患 14. 感染症 15. 免疫、アレルギー疾患 16. 癌 17. 術前、術後 18. クリティカルケア(ICなど) 19. 摂食機能の障害 20. 身体・知的障害 21. 乳幼児・小児疾患 22. 妊産婦・授乳婦の疾患 23. 更年期疾患 24. 高齢期疾患 25. その他()

16	平成19年度における、社会活動の実践件数 (例: 講演会・研修会・院内外講座における講師やコーディネーター、コラムの原稿執筆などの活動)	合計 _____ 件
17	平成19年度における、キャリアアップのために費やした時間の合計(例: 書籍・雑誌講読、文献検索、論文執筆など) ※勤務時間および学会・研究会・研修会などの参加時間を除く ※1ヵ月平均10時間であれば合計120時間 (いずれか1つ回答)	1. なし 2. 10時間未満 3. 10～40時間未満 4. 40～70時間未満 5. 70～100時間未満 6. 100～130時間未満 7. 130～150時間未満 8. 150～180時間未満 9. 180時間以上
18	平成19年度における、キャリアアップのための自己負担額 (学会等の年会費、交通費も含める) (いずれか1つ回答)	1. なし 2. 5万円未満 3. 5～10万円未満 4. 10万円以上
19	平成20年度現在、学会認定資格または健康、栄養に関する資格を取得するための研修会や講習会などに参加しましたか。 (いずれか1つ回答)	1. 参加した、または現在参加している →Q19-1 2. 現在検討中 →Q19-1 3. 参加していない →Q20
19-1	19で「参加」および「現在検討中」と回答した方にお伺いします。 その資格は何ですか。 (複数回答可)	1. 日本糖尿病療養指導士 2. 栄養サポートチーム専門療法士 3. 病態栄養専門師 4. 栄養サポートチーム(NST)コーディネーター 5. 臨床栄養師 6. NCMリーダー 7. サプリメント・アドバイザー 8. 栄養情報担当者(NR) 9. 食品保健指導士 10. 介護支援専門員 11. 健康運動指導士 12. その他()
20	今後、あなたが管理栄養士として勉強したい臨床栄養学分野は何ですか。 (複数回答可)	1. 栄養障害 2. 代謝疾患(糖尿病など) 3. 消化器疾患 4. 循環器疾患 5. 腎・尿路疾患 6. 透析 7. 内分泌疾患 8. 感覚器、神経疾患 9. 摂食障害 10. 精神疾患 11. 呼吸器疾患 12. 血液系の疾患 13. 筋骨格疾患 14. 感染症 15. 免疫、アレルギー疾患 16. 癌 17. 術前、術後 18. クリティカルケア(ICなど) 19. 摂食機能の障害 20. 身体・知的障害 21. 乳幼児・小児疾患 22. 妊産婦・授乳婦の疾患 23. 更年期疾患 24. 高齢期疾患 25. その他()

21	今後、臨床分野において専門性の高い学問が、仕事をしながらでも履修できるコースがあれば、進学を希望しますか。 (いずれか1つ回答)	1. 希望する 2. 費用や仕事との両立に問題がなければ希望する 3. 希望しない 4. わからない
----	---	---

IV. 管理栄養士の人材育成体制について

22	今後、臨床現場の管理栄養士においても看護師教育で行われているようなプリセプター(新人指導係)教育が必要であると思いますか。 (1.2.3すべての回答に対して理由をお書きください)	<p>1. はい 2. どちらともいえない 3. いいえ</p> <p>理由 []</p>
23	今後、わが国において管理栄養士の質の向上を目指す人材育成体制が必要であると思いますか。 (1.2.3すべての回答に対して理由をお書きください)	<p>1. はい 2. どちらともいえない 3. いいえ</p> <p>理由 []</p>

ご協力ありがとうございました。

厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)
保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究
分担研究報告書

地域保健サービスにおける栄養専門職のマンパワーに関する研究

研究分担者	田中久子	女子栄養大学 教授
研究協力者	梶 忍	世田谷区北沢総合支所 主査
	焔硝岩 政 樹	岡山県勝英保健所 主任
	大江裕子	宮城県東松島市国保健康課 技術主幹
	池田康幸	埼玉県三芳町保健センター 主任
	池田玲子	さいたま市健康増進課 主任
	濱砂祥子	船橋市健康政策課 技師
	藤内修二	大分県健康対策課 課長

研究要旨

本研究の目的は、わが国における地域保健・栄養活動における栄養ケアのための業務体制および内容、業務時間等の実態を把握し、新たな時代の要請に適応できる栄養ケアの担い手として管理栄養士に求められる知識、技能の向上等および必要なマンパワー整備のニーズを明らかにするための基礎資料を得ることである。

本研究の初年度である平成 19 年度に厚生労働省が実施した行政栄養士調査では、管理栄養士の業務量案分に“根拠あり”と回答した自治体は約 2 割であった。本年度は、行政栄養士のマンパワー確保の基盤整備を図るため、業務量把握様式案（以下「様式案」という）を作成し、プレ調査及び本調査を行った。プレ調査では、メタボリックシンドローム対策に関連のある業務として、保健所では特定給食施設指導、市町村では特定保健指導を様式案に当てはめ把握するとともに、様式案について意見聴取した。これにより既存業務が整理できること、評価を意識した業務企画できることが確認できた。本調査では様式案を精査し、協力の得られた保健所 27 ケ所、市町村 108 ケ所について 1 週間の業務内容と業務量を様式案に記入してもらうとともに、記録可能な期間について尋ねた。保健所、市町村ともマネジメントサイクルで約 7 時間、連携体制づくりに約 1 時間必要としていた。保健所は実態把握、市町村は実施の業務量が多い傾向が見られた。市町村における雇用形態別業務量では、常勤で連携体制づくりの割合が、非常勤では実施の割合が高い傾向が見られた。業務内容別では、保健所では特定給食施設指導が 1 日平均 2 時間と最多であり、市町村では、ライフステージ別業務が約 4 時間と 1 日の 5 割を占めていた。また、保健所、市町村とも 90%以上の方が様式案により 1 ヶ月以上記録可能と回答した。

本研究は、基本指針に基づき様式案を作成し、業務内容と業務量の実態把握及び先行事例の収集を行った。今後の研究として、急速に変化する時代に対応すべく地域保健サービスを充実するために、サービスの投入量である業務量に加えて、業務の質を経過評価、影響評価、結果評価として分析することが必要である。

A. 研究目的

行政栄養士活動に関しては、保健所法から地域保健法への移行を機に、活動の評価やあり方に関する研究^{1)~8)}、活動事例に関する報告^{9) 10)}がなされてきた。一方、社会情勢の変化や行政構造改革の中で高まる新たなニーズに対応すべく、保健・医療・福祉分野においても各種法律の施行や計画策定が行われてきた。

また、平成20年10月には、食育基本法や高齢者の医療の確保に関する法律の制定により、これまで地域栄養業務の指針であった「地域における行政栄養士業務の基本指針について」(平成15年10月30日付け健習発第1030001号)が廃止され、「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針について(以下「基本指針」という)」が通知(厚生労働省健康局長通知 健発第1010003号及び生活習慣病対策室長通知 健習発第10100001号)されたことで、新たな地域栄養活動における方向性が示された。

本研究の初年度である平成19年度に、厚生労働省が旧基本指針を基に実施した行政栄養士調査を活用し業務内容及び量を解析した結果、管理栄養士の業務量案分に根拠のあった自治体は約2割であった。そのため、本年度は、行政栄養士のマンパワー確保の基盤整備を図るため、基本指針に基づき業務内容と業務量の実態把握を行った。

B. 研究方法

基本指針に基づき、衛生行政報告例や地域保健・健康増進事業報告等の行政報告様式と整合性を図りながら、業務量把握のための様式案(以下「様式案」という)を作成した。様式案の作成にあたっては、前年度業務量案分に“根拠あり”と回答した自治体に既存の業務量把握様式の提供を依

頼し、収集した様式を参考に、基本指針の項目を整理した。その後、協力の得られた9保健所及び1市が平成19年度実績を様式案に記載し、結果をEメールまたは持参で入手し、電話または面接で内容を確認した。その後精査した様式案を、日本栄養士会行政栄養士協議会研修会等で提示し、記載の容易さや正確さを聴取するとともに、参加者に業務量の記載協力を依頼した。

1. 管理栄養士業務量把握のための様式案作成

様式案は、基本指針の項目を整理(図1)し、作成した。また、協力の得られた保健所及び市町村について、業務量の把握様式や把握方法を収集し^{12)~15)}、共通項目と地域性のある項目について検討した。

2. 様式案を用いた業務量把握

(1) プレ調査

業務量調査を実施しているA県保健所9ヶ所及びB県C市の業務量について様式案を用いて整理するとともに、様式案の改良等について意見聴取した。

(2) 本調査

様式案を精査した後、1週間の全業務を1時間単位で記録することを協力の得られた保健所及び市町村に依頼した。また、日常業務で記録する場合の、記録期間の可能性や様式案に関する質問紙調査を行った。なお、調査については、主に協力都道府県を通じて保健所及び市町村にEメールで依頼・回収を行った。

C. 研究結果

1. 業務量様式案の作成及び様式案への意見

(1) 既存の業務量把握の状況

業務量把握を行っている自治体の把握単位は、1時間単位、2時間単位、1単位4時間と都道府県により異なっ